

事務事業名	電算システム開発事業	所属部	総務部	所属課	情報システム課
政策名	総合計画体系 (VI) 推進計画・地域経営によるまちづくりの推進	所属G	情報システムグループ	課長名	古林 茂
施策名	(37) 時代にあった行政サービスの実現	担当者名	末次 治良	電話番号 (内線)	0854-43-8310
基本事業名	(108) 業務と組織機構の見直し	予算科目	会計 011 款 110 項 05 目 50 中事業 01		4700 電算総務管理費

1 現状把握の部

(1) 事業概要

① 事業期間	② 事業の内容 (期間限定複数年度事業は全体像を記述)	③ 開始したきっかけ (いつ頃どんな経緯で開始されたのか?)
<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (16年度~) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度 ~ 年度)	雲南市の電算システムは住民票、印鑑、税システム等基幹系ネットワークを利用したシステムから、財務会計システム、文書管理システム、人事給与システム等情報系ネットワークを使用した様々なシステムがある。現行法制度に即応したシステムに保つため、プログラム改修が逐次必要となる。また、利便性向上のための改修や導入等も含む。	合併と同時に電算システムを構築したが、制度改正等による電算システムのプログラム改修は必要不可欠である。また、より使い勝手のよい電算システムとなるよう逐次プログラム改修を行っている。

(2) トータルコスト

		単位	21年度 (決算)	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (計画)	25年度 (計画)	全体計画
① 事業費の内訳(概要)								
システム改修委託料		千円	5,590	5,745				
法・制度改正対応	12,176千円	千円			3,966			
滞納管理業務追加対応	2,021千円	千円						
その他(旅費、需用費)	28千円	千円						
事業費計 (A)		千円	24,186	18,594	14,225	30,106	0	
② 延べ業務時間の内訳(業務の流れ等)								
業務担当課との調整		人	5	6	6	6		
システム改修委託業務管理		時間	2,197	2,682	1,618			
新規システム開発委託業務管理		千円	8,379	10,428	6,378	0	0	
トータルコスト(A)+(B)		千円	32,565	29,022	20,603	30,106	0	

(3) 事務事業の手段・目的・上位目的及び対応する指標

手段	① 主な活動	指標名	単位	21年度 (実績)	22年度 (実績)	23年度 (実績)	24年度 (目標)	25年度 (目標)	最終 (目標)
	23年度実績(23年度に行った主な活動)	⑤ 活動指標							
	既存システムのプログラム改修委託。新規システムの導入。軽微なプログラムの作成及び改修、プログラム改修に伴う打合せ。	ア プログラム改修委託件数	件	22	17	11	10	10	
	24年度計画(24年度に計画している主な活動)	イ 新規システムの導入件数	件	0	2	0	0	0	
	ウ プログラム改修等直営件数	件	16	17	3	20	10		
	平成23年度と同じ								

目的	② 対象(誰、何を対象にしているのか)	指標名	単位	21年度 (実績)	22年度 (実績)	23年度 (実績)	24年度 (目標)	25年度 (目標)	最終 (目標)
	①電算システム ②各課・職員	⑥ 対象指標							
		ア システム数	本	45	47	47	47	47	
		イ システム活用職員数	人	568	558	549	538	527	
上位目的	③ 意図(対象がどのような状態になるのか)	⑦ 成果指標							
	①現行の法制度にのっとった電算システムの稼働ができる。 ②より使い易い電算システムの稼働ができる。	ア 現行法制度改正によるプログラム改修実現割合(改修数/各課必要数)	%	100	100	100	100	100	
		イ 原課の要望により行ったプログラム改修件数	件	24	21	6	20	10	
		⑧ 上位成果指標							
	ア 市民満足度(雲南市の行政サービスに納得している市民の割合)	%	66.7	67	66.7	70	70		

(4) 事務事業の環境変化、住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどうか変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?	② この事務事業に関するこれまでの改革改善の取り組み経緯	③ この事務事業に対して関係者(市民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?
機器の老朽化やシステム陳腐化に対応し、複雑化する業務に対処するため平成23年度において基幹系業務システムの更新を実施した。	軽微な改修は、外部委託を行わず職員がシステム改修を行い経費削減を行った。また、プログラム作成の必要がない集計処理などは、プログラム作成せずデータベース処理をメニュー化して対応した。	H21年度の議会決算審査特別委員会で、システム開発経費をもっと削減できないかという意見があった。

事務事業名	電算システム開発事業	所属部	総務部	所属課	情報システム課
-------	------------	-----	-----	-----	---------

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市(町)の政策体系に結びつくか? 意図することが結果に結びついているか?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】↘ ⇒3 今後の方向性・改革改善に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている ⇒【理由】↘ 現行法に基づいたシステムの開発・改修により、時代にあった行政サービスの実現につながる。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市(町)が行わなければならないのか? 税金を投入して、達成する目的か?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】↘ ⇒3 今後の方向性・改革改善に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【理由】↘ 電算システムで行っている業務は、法律に基づくものや市民のために実施しているものであり、公共性がある。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか? 意図を限定・拡充すべきか?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】↘ ⇒3 今後の方向性・改革改善に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 適切である ⇒【理由】↘ システム全体を対象にしており、限定してはならない。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか? 成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか? 何が原因で成果向上が期待できないのか?	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】↘ ⇒3 今後の方向性・改革改善に反映 <input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】↘ プログラム改修等を業者委託せずに職員の手で行えば、原課の要望に応えることができるが、そのためには専門的な知識を有する職員を育成する必要がある。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?	<input type="checkbox"/> 影響無 ⇒【理由】↘ ⇒3 今後の方向性・改革改善に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 ⇒【その内容】↘ 現行法に基づいたシステムの開発・改修により、初めてシステムの運用ができる。
効率性 評価	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか? 類似事業との統廃合ができるか? 類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか?	<input type="checkbox"/> 他に手段がある ↘ (具体的な手段, 事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】↘ ⇒3 今後の方向性・改革改善に反映 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】↘ 類似事業はない
	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか? (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】↘ ⇒3 今後の方向性・改革改善に反映 <input type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】↘ システムのプログラム改修等を業者委託せずに、職員ですることにより事業費の削減につながる。
公平性 評価	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方の工夫で延べ業務時間を削減可能か? 成果を下げずに正職員以外や委託でできないか?	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】↘ ⇒3 今後の方向性・改革改善に反映 <input type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】↘ システムのプログラム改修等を業者委託することにより人件費の削減につながる。アウトソーシング、ASP(アプリケーションサービス提供者)を利用することで、人件費の削減ができる。
	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか? 受益者負担が公平・公正か?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】↘ ⇒3 今後の方向性・改革改善に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】↘ 全ての職員、課が対象であり、また、すべての住民につながっている。

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)																						
① 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ② 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③ 効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ④ 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	システム更新を実施したため、既存システムの改修は必要最小限に留めた。																						
(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td>●</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table> (廃止・休止の場合は記入不要)			コスト			削減	維持	増加	成果	向上	●			維持			×		低下		×	×
				コスト																			
		削減	維持	増加																			
成果	向上	●																					
	維持			×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策 システムのプログラム改修等、業者を介さずに職員の手で行うには専門的な知識が必要であり、長年の経験を有する。毎年の法改正により業務が年々複雑化しており、システム改修を行うにも制度を熟知していることが必要不可欠である。また、アウトソーシング、ASPの利用等、根本的なシステムの見直しをすれば、人件費の削減はできると考えられるが、膨大な初期投資費用が発生する。また、既存資産の活用、ランニングコスト等さまざまな課題を検討する必要がある。																							